# 令和６年度 第２回沼津市幼保小連携協議会　報告

１　日　時

令和７年１月 28 日（火）14:30～16:15

２　場　所

青少年教育センター２階　第２・３会議室

３　出席者

雨宮　なおみ　（香貫小学校長）
渡辺　司　　（小百合保育園長、沼津市幼児教育研究協議会会長・沼津市保育園連盟会長）
後藤　信俊　　（幼保連携型認定こども園こずわ幼稚園長、沼津市私立幼稚園協会会長）
真野　津久美　（大平幼稚園長）
朝香　美智代　（大平保育所長）
蓮池　幸美　　（第三小学校教諭）
教育企画課、学校教育課、教職員研修センター、こども未来創造課（事務局）

４　協議内容

⑴　令和７年度沼津市幼保小連携合同研修会について及び今後の連携推進に向けた取組

【事務局より】

令和６年９月 11 日に開催した第１回幼保小連携協議会での意見を踏まえ、次年度の沼津市幼保小連携合同研修会の内容について説明した。合同研の内容をさらに充実させていくために、合同研修会開催前に、幼保小の教職員が顔合わせをしたり入学後の子供たちの様子を参観していただいたりする機会等を設定できるとよいが、どのような取組が実現できるか。

（主な意見）

（幼保）合同研より前の５月頃に実施するのであれば、日時がある程度決まっている方がよい。決まっていないと、忙しさで日程が調整できず、なかなか実現できない。

（ 小 ）今年度中に仮にでも決まっていれば、調整が可能である。

（幼保）５月末くらいまでに連携週間のようなものを設けて、それを踏まえて６月の合同研を迎えればより連携が深まっていくのではないか。

（ 小 ）早い時期に幼保の先生方に入学後の子供の様子を知ってもらうことには意味がある。環境調整をすれば適応していける子供たちが見えてきて、適切な支援につなげることができる。

（幼保）幼稚園は、比較的参加しやすいと思う。事前に分かっていれば、保育園の先生方も、保育の途中でも学校へ行くことは可能だと思う。

⑵　１年生応援シートについて

【事務局より】

前回の協議会でのご意見を参考に、修正した点等について説明。実際にシートを作成している先生方の意見を伺うとともに、各組織で応援シートに関するご意見などがあれば伺いたい。

（幼保）実際に作成してみて、よさと心配な点について記載するのでやや混乱していたが、内容的にはそれほど難しさは感じなかったようである。

（幼保）指導要録へ記入する内容との重複がある。目的を明確にしたい。すみわけがはっきりすれば、納得して取り組める。

（ 小 ）要録は法で定められているものであり厳重に保管している。応援シートは、担任が指導の手がかりとなるように、すぐに見られる場所に保管したい。

（幼保）要録はこれまでの保育歴を示すもので、応援シートは卒園時の様子を伝えるものとして考えている。児童の様子で、これまでの成育歴や発達について知りたいと思った時には、要録を見てもらえればよいのではないか。

（幼保）この機会に指導要録に関する勉強会を幼保で行ってみてもいいかもしれない。
（ 小 ）要録を読むと、先生方のこれまでの丁寧な関わりやその子の成長が伝わってくる。一方で幼保の先生方が忙しいこともわかるので、減らせる業務は減らしていった方がよい。要録への記載内容は簡素化してもよいのではないか。
（幼保）年度末は業務が集中するので、要録は少しずつ記載していくようにしている。応援シートは入学直前のその子の情報を伝えるものとしてとらえればよいのではないか。
（幼保）会合などで話をし、応援シートについてご意見を伺った。園によって様々な反応である。小学校での勤務経験のある園長は有益な情報だとして賛成している。一方で個人情報として取り扱いを懸念する園長もいる。現場の職員の反応はよい。
（幼保）保護者用のシートについては、特によい反応が多い。保護者によってはたくさん書いてくれるだろう。だからこそ、受け取った小学校が資料をしっかりと読んでいないといけない。
（ 小 ）保護者が書いてくださったシートは、年度初めの教育相談で活用したいと思う。保護者も安心するし、その思いを共有できる。詳しく話を聞くことで、子供理解にもつながる。
（幼保）保護者との信頼関係を築くためのツールとなる。学校側として、すごく大切な情報になると思う。園に渡したものを小学校が持っていてくれると、園と小学校が連携していることが保護者にも伝わる。
（ 小 ）令和７年度は、大平地区で試行するが、シートのデータをもらえれば年度初めの保護者面談用の資料として活用できる。若手教員や初めて１年生を担任する教員にとって、保護者との信頼関係を築くための手助けとなる資料になると思う。

(3)「インクルーシブ教育保育研究 Spring プロジェクト」についての意見交換
【事務局より】
県教育委員会指定研究「インクルーシブ教育保育研究 Spring プロジェクト」は、令和４年度から３年間の研究期間を終え、今年度末に終了する。研究協力園での成果も出てきている。研究が終了しても、本市の取組として継続していけることや生かしていけることはないか。

（幼保）このプロジェクトに関わり、保育ソーシャルワーカーに定期的に来てもらい、とても勉強になった。外部の方から、新しい目で保育の様子を見ていただくことで視点が広がったり保育者の自信につながったりした。幼児期の教育として何ができるかを改めて考える機会になった。また、小学校との情報共有をしていくことの大切さを感じた。
（幼保）今年は、園でアセスメントを行ってみた。学校は勉強するから嫌だと言っていた子が、本研究で開発された「あそびプログラム」を実施することで、文字に興味を持ち、書いてみたいという気持ちが高まった。あそびの中で楽しく自然に取り組めてよかった。
（ 小 ）「やりたい」という気持ちから１年生の学びがスタートするようにしたい。
（幼保）幼児期だからこそできることを、大切にしていきたいと思う。

(4) ICT 機器を活用した連絡ツールについて
【事務局より】
令和６年度の幼保小連携合同研修会から、幼保小連携のため Google クラスルームの運用を開始している。実際の運用について、よさや改善点等があれば伺いたい。

（ 小 ）今年度は、電話でのやり取りが多かった。次年度、使用方法について合同研で協議してもよいかもしれない。直接話すよさもあるので、上手に使い分けられるとよい。
（ 小 ）使いましょう、と促すだけでなく、どんな時に使うと効果的かということも伝えておけるとよいかもしれない。また、１年生の担当教員だけでなく、管理職も把握していると複数の目でチェックができる。頻繁に活用することで、こまめなチェックにつながる。
（幼保）架け橋プログラムを作成していく上でも、ICT 環境を整えておく必要があると感じる。
（ 小 ）他のブロックの利用方法がわかり、参考になった。